

群 教 セ	G15 - 01
	平 27.256 集
	高 - キャリア

平成 27 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社 上毛新聞社

長期社会体験研修員 古谷 正敏

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社上毛新聞社は、県域地方新聞「上毛新聞」（明治 20 年（1887 年）創刊）を編集・発行している。朝刊のみで発行部数は約 30 万部、県内シェア 4 割以上を誇り、地域密着の紙面づくりを心がけている新聞社である。業界でも珍しい本紙とスポーツニュースの 2 部構成としており、県内ニュースを中心に配信している。また、通信事業の多様化に伴い、ネット関連の配信にも力を注いでいる。

2 研修先での主な研修内容

(1) 前橋支局での研修【4 月～6 月中旬】（研修場所：前橋市役所）

○前橋市内の催し物などを対象とした記者活動

同市内で行われる展示会やイベントを中心に取材活動を行った。取材や記事作成に関する基礎を学び、新聞記者としての基本を理解する研修となった。

(2) 運動部での研修【6 月中旬～8 月】（研修場所：本社）

○県内スポーツ関連を対象とした記者活動

県内で行われるスポーツや県外で活躍する県内出身者、連日行われる高校野球大会や県中体連、県内ゴルフの大会などの取材活動を行った。

(3) 文化生活部での研修【9 月～12 月】（研修場所：県庁）

○県内の文化情報を中心とした記者活動

県内の「文化、シニア、暮らし、まち歩き」のページを担当し、県内の若手芸術家や老人ホーム、美術館の催し物などの取材活動を行った。

(4) 報道部（経済担当）での研修【1 月～3 月】（研修場所：県庁）

○県内の企業や経済活動を対象とした記者活動

企業経営者や経済に関すること、新規参入店や新商品の紹介、講演会など、県内の経済活動に関する取材活動を行った。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業の実務研修や現役記者から、直接学んだ知識をもとに、人間関係形成・社会形成能力に視点をあてたリーフレットを作成した。リーフレットは、「聴くことと話すこと」をテーマとして「相手に関心を持つこと」「傾聴すること」「良い関係性を意識したコミュニケーション方法」の三つを中心に、人と接するためのコミュニケーションの基本をまとめた。新聞記者としての実務経験をもとに、他者と良好な関係性を築くためのコミュニケーションの在り方について、各学校の先生方がキャリア教育で活用できる資料として作成した。

(2) 実践の概要

題材名 「聴くことと話すこと」～コミュニケーションの基本を学ぶ～（特別活動）

対象 総合学科第 1 学年 41 名

授業は 1 時間で展開し、本研修で体験した取材活動の様子や作成した記事等もとに、企業が求める社会人として必要なコミュニケーション能力の基本について講義を行った。他者と良い関係性を築くためには、「自分も相手も尊重する人間的な関わり合い」「自分の考えや気持ちを適切につかみ

率直に丁寧に相手に伝える」「相手の話す言葉にも丁寧に耳を傾けて聞く」などを身に付ける事が必要である。グループ学習を通して自分と他者の考えや意見の違いを共有し、学校生活や社会生活における人間関係づくりの重要性を理解させた。授業のまとめでは、自分自身を向上させるためのコミュニケーションの在り方を考えさせ、日々の学校生活に結び付くようにした。

II 研修成果

1 記者としての実務研修について

企業は、社会からの信頼が最も重要である。新人研修において、県内 30 万部、シェア 4 割という実績は長年の信頼が積み重なった成果であることを知り、記者としての取材活動や記事を書くことについて責任の重さを実感した。特に、取材活動では取材対象者に気持ちよく取材に応じてもらうために、適切な質問、相手の意図を的確に捉えるコミュニケーション力、取材内容に対応するための幅広い知識が必要であると痛感した。

各部局において、記者として取材の在り方や記事の作成方法について実務を通して研修を行った。前橋支局では、記者の仕事や記事の書き方など取材活動に関する基本を学んだ。運動部では、活躍した選手や試合の流れなどを考えたり、限られた時間で取材をしたりするので、判断力と文章力が求められることを取材活動で感じた。文化生活部では、掲載する記事の内容を考え、取材対象者を探すなど、自分で考えて行動に移す企画力や取材対象者に対する気配りの大切さを学んだ。社会から信頼されるためには、人材育成が重要となることを再認識する研修となった。

2 社会性について

本研修を通して、社会全体との関わりに目を向け、広い視野で生徒を育てることの大切さを改めて実感した。よりよい人間関係を築くためには、相手に関心を持ち、傾聴する姿勢が重要である。そして、自分の考えや気持ち丁寧に相手に伝えるために、自分も相手も大切にしたい表現方法を高校生として身に付ける必要がある。研修を基に、学校生活と社会生活を結び付けた教材を作成し、他者との関わりから社会性を高める学習の在り方を考えることができた。

3 キャリア教育実践について

授業は、事前アンケートでコミュニケーションに対する生徒の考えを把握し、「話すこと」「聞くこと」の必要性を理解させた。本研修で体験した取材活動の様子や作成した新聞記事からコミュニケーションの基本を伝えたことで、良い関係性を意識したコミュニケーション表現の在り方を理解させることができた。また、グループで意見をまとめ、発表し合うことにより、良好な人間関係を築くことの大切さを身近な問題として考えさせることができた。社会人としてコミュニケーションの基本を身に付け、社会が求める人材の育成につながるキャリア教育が実践できるよう努力したい。

III まとめ

新聞社という地域社会と深くかかわる職場で研修し、取材活動を通して多くの人に出会い「社会が求める人材とは何か」「企業が取り組む人材育成」について学ぶことができた。教員としてこれまで積み重ねた経験に、実社会が求める人材育成の視点と民間企業の経営理念の一端を知識として身に付けることができた研修となった。

この研修で得た経験と知識をキャリア教育の推進に生かすとともに、ミドルリーダーとして若い教員への支援を積極的に行うなど、今後の教育活動に生かしたい。

(担当指導主事 鎌田 英喜)